

遊煩小必林

平成二十九年十一月

報恩講 法要

報恩講は年内最後の法要です

宗祖親鸞聖人のご命日をご縁として

ほとけと成られた故人に

今年一年を報告し、見護つて下さった事に、また尊い仏縁を下さっている事に感謝する

法要です

どうか万象繰り合わせのう

えご参詣下さい

読経
法話

おどき

十一月三日（金）
午後一時より

「仏像描くぞう」を始めてから四十年ぶりに「俺は

が、実物を拝観したいという思いも復活している。

上野で開催される「運慶展」も行きたいし奈良の

興福寺の「阿修羅」ほか乾漆仏像も拝観したい。そ

う思うと美術館にも行つてみたいが、お寺は基本年

中無休で零細ブラック企業なのでまとまつた時間が

取れない。そんな観に行きたかった絵画に「バベル

の塔」と言うのがある。これは十六世紀のネーデル

ランドの画家フリューゲルが描いたもので元になつ

た物語は俗に云う「旧約聖書」の一節でノアのひ孫

が神の怒りによる大洪水に対抗するため、神の領域

である天まで届く塔を建設しようとするが、人間の

不遜、おごり、たかぶりに怒った神はそれまで一つ

だつた「言葉」を幾つにも分け意思疎通をできなく

し人間を分断し結果、作業は中止となり人々は「言

葉」ごとにグループを作り世界に散つたという話。

このお話で頭に浮かぶのは

『淨土は言葉の要らぬ世界である』

人間の世界は言葉の必要な世界である

地獄は言葉の通じない世界である』

曾我量深という先達の言葉です

バベルの塔にもある通り言葉が通じなければ意思の

疎通はできません。意思疎通が出来なければお互い

にそっぽ向いて無関心でいられればそれはそれでいいのだけれどそれでは済まないのが人間です。

「あの人何を考えているかわからない。怖い」

と何かされたわけでもないのに疑心暗鬼になり不安

解消自己防衛の為に攻撃を開始します。

「人間の世界は言葉の必要な世界である」

言葉は不十分ながら自分自身を、相手の事を理解し

ようとするために必要な道具です。

自分の事は解っていると私たちは思っていますが実はあまりわかつていません。瞬発的な喜怒哀楽の感情をコントロールすることは不可能、体調の好不調（疾病、ケガ）も自分でどうにかすることは難しい。

にもかかわらず「私」と言う事象をさも理解してい

る様に振る舞い本当は何だかよく解っていないのに「私は」「私が」と「私」に執着しています。（この自己不明という事実はいずれA-Iの発達によつて私たちに突き付けられる問題ですがそれはさておき）それは時に「自分だけの正義」として他人に向けられます

「自分はこうだから世間もこうでなくてはいけない」「この人はこういう人だから間違っている」

相手の事を勝手に決めつけほとんど理解しようとせず断罪してしまう。

極端な話、自分の事さえ解らないのに他人の事なん

て解るわけがない。にもかかわらず解つたつもりでいるからややこしくなります。「解らない」という事が大前提であるから解りあう努力が必要なのでしょう。その最低限（一定のルールの中で）理解しえる道具が「言葉」です

人間は野生の中では弱く、生存の為には群れるしかなく、群れはそこに生きる者の関係性を良好に保つために社会を作ります。その中で、意思疎通の為には言葉が必要でそれを持つに至つたのではないでしょうね。 しょうか。

最低限わかる範囲でお互いやつて行こうという努力が失われてしまうと争いが生まれます

「地獄は言葉の通じない世界である」

今、私たちは「人間の世界」を生きていますか？

「地獄」を生きていますか？

合掌

住職

自力のわたし（ちょっと自慢が入っている話・・・恥）

今朝も写真を撮りに石神井公園へ（興味のある奇特な方はホームページを見てください、わたくしの撮った写真をほぼ毎日UPしています）。毎朝見る光景だが、走っている方々を見ていてふと記憶がよみがえる、「俺も30代前半までは毎日走っていたな」と。

同時に、5年前にある宿の風呂（サウナ）で一緒になつたオッちゃんのことを思い出す。その方は、ずっと高校や大学の陸上部でコーチや監督をしていたのだという。

そのオッちゃんがサウナの中で話しかけてくれた。

「あんた、何のスポーツしてんだい？ 陸上やつてた？」

「いえいえ。なんもしてませんよ。この締まりのないだらしのない体を見ればわかるでしょ」「足。あんたの足みりやわかるんだよ。その足の形は相当走り込んだ人間の足なんだ」「あの、中学までは野球やつてましたが、その後は運動系のクラブとか入つてません。ただ、30歳くらいまでは、自分で毎日10キロ以上走つていきましたけど」「やっぱな」「でも、20年前ですよ」「若いころ走つていたら違うのよ。俺くらいになるとわかるんだよ。足の薄さや、

指の形で」つて、なんだかおもしろき話をさせてもらった。

それにしても、なんであんなに意味もなく（野球部の頃は意味あつたけど、その後15年）毎日あんなに走つていたのだと、とふと考へだした。

私の通つていた中学の野球部は、マラソン部と言われるくらい走り込みが主流の練習をしていた。毎日、毎朝、となりの三宝寺池の周りを5周・10周していた。中一の時、

当時肥満児の私にとつては走り込みほど辛いものはなかつた。手を抜こうかなと思つていたが、同級生、後輩たちはどんどん足が速くなつていく。正直悔しい、いつもビリケツを走つていて、走り終えたみんなが、わたしが走り終わるのを眺めている姿を見ながら走るのは。恥ずかしくもあつた。必死に毎日走つていたら、中3のころには普通にみんなと走れるようになつていて。体育で1キロとか走らされると、そのころには先頭グループで難なく走れていた。ただ、依然と野球部の同級生の中では一番遅かつた。だから、走るのはやめられなかつた。

で、高校へ進学。私の入つた高校は、当時は全国でも名をとどろかすようなスポーツ校。同じ16歳とは思えないような運動能力を持つ人々がクラスの半数近くいる。だいぶ走るのにも自信を付けていたのに、体育の授業で走らされるとまたまた後ろのほうで必死についていくのがやつと、て感じ。クラブには入らなかつたが、なんか負けられん、とか思つていたのだろう、毎日走るのをやめられなかつた。このころから、意味なく走る生活が始まつた。一日最低1時間走る生活。

大学では演劇部。もう、そんなにストイックにならなくてもいいか、とも思つていた。大学の体育の授業では運動系クラブの人間に交じつて先頭グループで走れていたし。ところが何故かその時の演劇部員さんには、中学の時県大会で入賞したという陸上部出身の方や自衛隊を辞めて思うところあつてうちの大学に来たという方がいて、たまに「みんなで鴨川べり走るぞ」と2~3キロ走りに行くと、

他の部員さんたちは全く付いてこれないのに、この二人だけは余裕で付いてくる。当時、部長だったり、部を取り仕切つてやるという野望を持っていた私としては負けるわけにいかん、と思つて、ひたすら走り込みを続けていた。気づくと、何もスポーツしてないくせにそうとうな走り込み人生の10代と20代だった。

何が言いたの?と思われるでしょうが、もう少しお付き合いを(>_<>)

そろそろまとめに入ります。
今朝そんなことを思いだしていたら、ふと気がついたのです。

「ああ、自分が真面目で、辛抱強くて、己の努力で走つていたとずっと思つていたけれど、走らされていたんだ!」つと。

私は自分で走つていたわけではなく、周りから押してもらつてようやく走つていたというわけです。そうしたら、中学入学当初は学年で一番遅く(男子女子混ぜた中で)、1キロ走るより歩く方が速かつたような私が(走ると100メートルくらいですべての体力を使つてしまふので、結果歩くより遅くなるのです)、気がついたときには20キロくらいなら鼻歌交じりで走れるようになつていて。(あくまで20代当時はですよ)。

そんなことを思いだしたら、ちょっとだけ他力に感謝つてこんなことなのかなと思えたのです。難しく考える必要はないのかなとも。何かのきっかけでふと気づく、「あ!自分でやつていたわけじやなかつたんだ」という気

づきが大事なのではないかと、今更ながらですが、本当に今朝感じたところです。とてもホントなわたしの今の感情を今回は書かせていただいているのです。

それでもやはり自分を誇りたい気持ちはだくだくと根底に流れているのも事実です。今こんなことを書きながら、誇りたい、走れるようになつた、昔は走っていた、そんなことを誇りたい自分がいるのも事実です。

自分でやつていると思い込んでいたことが、全く自分の力ではなかつたんだと気付いた瞬間、ちょっと解放されまし、自分という物から、ほんのちょっとだけですが。

解放されると、やはり解放してくれた状況であり人々に自然と感謝の気持ちが出来きます(今回であれば、走らせてくれた状況やプレッシャーとなつてくれた友人たち)。人を憎むよか、感謝だなあ、と、思えた方が気持ちよく過ごせます。だから、もし皆さんも、何かのきっかけで、「ああ!ありや自分の努力の賜物ではなかつたんだ」というような気付きに出遭つたときには、その感情を大切にしてみてはいかがでしょうか。

副住職

追想

そして今私は思つています、「ああ!書くことが見つかってよかつたあい」と。今朝がたまで何を書けばいいのだと暗鬱とした気持ちでいた自分がいたわけでした・・・。朝、走つていてくださつた方々にも感謝です。(ちなみに、この稿を書いているいまこのときが寺報の原稿の締め切り日であります)

親と言うのは「うざい」なのだ。

自分が子供の頃そう思つたし親になつた今は娘にとつて「うざい」と思う。でもついつい「うざい」事をしてしま

最近やつと娘が興味を持つものを見つけた、すると親父は嬉しがり先走つて関連書籍やDVDを見つけて「読め」「観ろ」と渡す。これは自分でも経験あるが相当イラつとする。

挙句蘊蓄を騙つたりするから最悪だ。若い頃「このオッサンめんどくせえ」と思ったオッサンに今、成つてゐる

大体自分が面白いと思うことに一生懸命になつていれば子供の事なんてなおざりでいい、子供の様子を観て、いざとい

う時に手を貸せばいいのだろう

私の父はそうだった。

余計なことをするのは親の自己顕示欲の現れだ

私は未だに父のようにはなれず今日も

「うざがられる」

*「うざい」うざつたいの短縮形 うつとうしくて目障りな様子 たまらなく不快な感じがして、そばに近寄るのも嫌な様子（新明解国語辞典）

若者はもつと縮めて「うざつ」と言う

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さん「経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまます。その為、「法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有

ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとつて一生の一大事です。そこは相身互い、どうか「寛恕下さいますようお願い致します

定例行事

聞法会 每月2日夜7時から 現在、鉛筆写経（親鸞和讃）とお話、座談会をやっています（1月、8月はお休み）

歎異抄を読み聞く会「微妙音」 每月5日午後2時

十一月はお休みします

白色白光の会（婦人会） 每月第2木曜午後1時

お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

「照久会」淨土真宗初めて講座 二月、四月、六月、十月、十二月の第2土曜午後2時より5時まで（参加費 2千円、照久会会員は千円）講師 聞成寺 佐竹貫裕師

仏像なぞり書き「仏像描くぞう」

第2水曜 夜7時半と月の最終日曜朝9時からやつてます。

参加費三百円（初回のみ別途テキスト代千円）

順 正 千
練馬区石神井町3の17番

03-3996-2064